



# 東九州支部報

第103号

公益社団法人日本山岳会東九州支部  
2023年10月25日(水)発行



九州5支部集会・法華院にて(2023.8.5~6)

も く じ			
1. 支部活動		より安全な登山のために(No.51)	13
九州5支部集会と山の安全を祈る集い	2	山岳保険のすすめ	14
山の日登山・崩平山	4	古典「山岳」拾い読み(No1)	16
第20回青少年体験登山大会	5	山の事故の法的責任	17
7月月例山行 犬ヶ岳、求菩提山	5	こぎこぎ倶楽部山行 熊渡山～松カブ	17
9月月例山行 平尾台・貫山など	6	こぎこぎ倶楽部山行 松カブ～黒塚山	18
登山教室 鶴見岳	7	奥穂高岳・鳥海山・餓鬼岳・鋸岳	19
第36回全国支部懇談会参加報告	7	金色溪谷沢登り	22
山のグレーディング調査に参加して	8	中御所谷西横川遡行	23
支部講習会(小鳥谷)	9	台湾五岳・南湖大山に参加して	25
支部講習会(日出の岩場)	10	私の無名山ガイドブック・No90	25
支部講習会(尺間嶽)	12	3. お知らせコーナー	
2. 個人投稿		支部からの報告ほか	26
ペンリレー 第47回	13	後記	28

## 九州5支部集会と山の安全を祈る

### 集い 開催報告

下川 智子 (14505)

九州5支部集会と第14回山の安全を祈る集いが東九州支部主催で2023年8月5日～6日に法華院温泉山荘で開催された。

#### 九州5支部集会

九州5支部集会は平成27年に宮崎支部、平成29年に北九州支部で開催され、次は平成31年に東九州支部で開催予定だったがコロナ禍などのため延期され今年3回目の開催となった。

福岡支部10名、熊本支部11名、宮崎支部4名、北九州支部5名、東九州支部29名、記念講演会講師として日本山岳会理事(兼)千葉支部長の松田宏也さんの参加で総勢60名となった。

集会は100人収容の法華院温泉山荘の大部屋で13時30分より、まず東九州支部安東桂三支部長の「九州5支部集会の意義は、九州各支部の発展と交流と考えます。この九州5支部集会でそれぞれの支部の活動や課題などを話し合い交流をふかめたい」との挨拶で始まった。

各支部に事前をお願いしていたアンケートにより、現在の支部の会員数及び平均年齢を表にすると以下ようになる。

	会員	準会員	会友	平均年齢
福岡支部	53	1		76歳
熊本支部	32		33	68歳
宮崎支部	43		21	75歳
北九州支部	57		26	72歳
東九州支部	72	4	83	68歳

アンケートに基づきそれぞれの支部の活動報告と課題の発表があった。

まず福岡支部の渡部秀樹事務局長から、会員の高齢化とそれに伴う会員減少が一番の課題で、夏山フェスタ in 福岡の主催や古道ロングトレイルの共同踏査、山のトイレ協議会と合同の清掃登山など他の山岳関係団体との協同で行事を行っているとの発表があった。

次に熊本支部の土井理支部長が会員増加の対策としてホームページ作成や一般登山者向けの登山教室などを検討中であること、また会員の親睦を図るため新春晩餐会や夏のビールパーティなどを

開催、同好会活動として花を愛でる会、写真同好会、里山低山クラブなどを設けていることなどを発表。

宮崎支部は日高研二支部長より、家族登山や宮崎家庭裁判所少年補導委託登山、宮崎ウエストン祭などを実施、またできるだけ多くの会員が参加できるようにハード、ソフトの登山計画をたてているとのこと。

北九州支部は清家幸三事務局長から、楨有恒碑前祭や英彦山清掃登山、家庭裁判所ハイキングサポート、幼稚園児見守り登山、バスハイキング、ポレポレ山行などの活動報告があった。

東九州支部は安東桂三支部長が登山入門教室、青少年体験登山、登山研修会、清掃登山、スズタケ枯死とシカの食害調査などの活動を発表した。

どの支部も会員の高齢化と会員減少、若い新入会員獲得の難しさが課題だった。時間の関係で課題を解決するための議論を深めることはできなかったが、どの支部も同じ課題を抱えその中でできることを工夫しながら頑張っている姿を知ることによって刺激となり励まされたことと思う。

その後の討議で会員から、日本山岳会会員であることのヒカリモノは何か、若い人たちに魅力を伝えられるものは何か、との質問があり、松田千葉支部長が「日本山岳会は長い歴史がありその中で素晴らしい岳人がたくさんいます。しかし若い人たちにそのようなことを伝えてもそれが魅力には繋がらない。それよりも今会員である皆さんが山に行き生き生きとしていること、連れて行ってもらっただけの山行ではなく自分が連れて行く、そうすることで力量が付き本当の楽しさを味わうことができる。また山岳会には多くのクラブがあるのでクラブライフを通して仲間になって人生が豊かになる、そういう生き生きとした姿をホームページやSNSで外の世界に発信することだと思う。病気や孫の話、年金の話はしない。」と笑いを誘いながら答えられた。

第一部が終わり写真撮影の後、二つの記念講演があった。

昭和5年の遭難から現在までー

加藤英彦 東九州支部前支部長

93年前の8月11日久住御池周辺で低体温症のため二人の若者が遭難死した。二人の慰霊のためこのような痛ましい遭難事故を二度と起こしてはならないという遺族と当時の山岳関係者の強

い願いが慰霊碑建立という形になり、慰霊碑が久住の小高い丘のうに建てられた。しかし、その後風雪により慰霊碑が倒され、長い間その存在も忘れ去られていたが平成22年倒れていた慰霊碑を発見、その修復作業が始まった。93年前の遭難から慰霊碑修復までの経過をビデオで紹介しながら、山での遭難の痛ましさと山の安全を願う多くの岳人たちの祈りの象徴である慰霊碑の前で毎年8月慰霊祭を行っている、これからもこの慰霊碑を守り続け、山の安全を祈り続けたいと話された。

「生きて還って、また登る」 ～ミニヤコンカ生還から41年の歩み～

松田宏也 日本山岳会理事(兼)千葉支部長  
自身の山との出会いから1982年のミニヤコンカ遠征と遭難、現在の山との向き合い方までの話のあと、35年前の冬の北海道知床斜里岳登頂のビデオを上映。

ミニヤコンカの頂上目前で天候悪化により登頂断念、そこから19日後地元農民に発見されるまでの寒さと飢えに耐え生き抜いた壮絶な体験を語っていただいた。6000メートル、7000メートルで打ち付けたピッケルの刃が欠けるほどの硬い氷の壁と闘い、飲まず食わずで食べ物も口にしても喉に通らないという状態の中でひたすら下山を続けるという想像を絶する体験。普通なら力尽き息絶えても不思議ではないその極限状態を支えたものは、自分はこんなところで死ぬはずがない、ミニヤコンカは次の7000メートル、8000メートルへの登竜門だという思いだったと語られた。

未来へ希望を持つこと。人間の持つ底知れない強さを感じた。凍傷のため両膝から下と両手指切断、500日の闘病生活の後、元の会社に復帰、翌年から両足義足で登山活動を開始。ビデオで北海道斜里岳での重い義足とスキーをつけての登頂の様子を見る。深い雪の中を慣れない義足でスキーを操りながら黙々と頂上を目指す姿に深い感動を覚える。その後も日本各地の山に登り海外遠征も行う。最後に2020年の日本山岳会創立120周年記念事業のグレートヒマラヤトラバースのファーストステージに参加した時の様子を写真で説明されて講演が終わった。講演の中で、自身の山との向き合い方を決定づけたのは、ミニヤコンカの前に遠征したアラスカの山だったと言われ

た。それまでの日本の山とは違うスケールの大きさを感じ自分は今まで日本人のスケール感で物事を見てきた、世界にはもっと大きなもっと高い山がある、そんな山に登り高度を感じ、風を受け自分がそこで何を感じるか知りたいと思ったと。不自由な体ですっと山に登ってこられた力の源は何かとの質問に、自然が与えてくれる力だと答えられた。山に行く度に元気になって帰ってくる、皆さんも山に登りましょうという言葉でしめくられた。

講演会終了後、18時30分から20時30分まで食堂で夕飯と懇親会が行われた。

### 山の安全を祈る集い

翌6日は久住御池そばの丘の上に建つ慰霊碑前で山の安全を祈る集いと慰霊法要の予定だったが前夜からの激しい雨のため中止となり、法華院温泉山荘の大部屋で九重山法華院白水寺、弘蔵岳久院主による慰霊法要が行われた。

弘蔵院主による読経の中、各支部支部長が焼香、亡くなった二人の慰霊と山の安全を祈り参加者全員で黙とうした。最後に東九州支部の歌とも言える坊がつる讃歌を1番から9番まで歌ってすべての行事を終えた。



山の安全を祈る集い・9月6日法華院山荘にて

心に残る講演をしていただいた松田宏也千葉支部長、加藤英彦前東九州支部長はじめ遠いところご参加いただきました福岡、熊本、宮崎、北九州支部の皆様、東九州支部の会員会友へ心からお礼申し上げます。

次回の九州5支部集会熊本でお会いできる日を楽しみにしています。

## 2023年山の日登山

# 「ふるさとの山に登ろう in 九重町 崩平山」

阿南寿範 (9169)



崩平山山頂で

2023年8月11日は、「全国山の日」国民の祝日。「山の日」にちなんで、「山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する」をスローガンに広く一般の登山者などに参加を呼びかけて山登りの行事を実行しようと、8年前から「大分県山の日実行委員会」大分県山岳連盟、日本山岳会東九州支部、大分勤労者山岳会、3団体で継続中である。

平成29年から「ふるさとの山に登ろう」をテーマにして県下市町村を持ち回りで広く一般に呼びかけて実施を始めた。ここ3年間コロナウイルス感染症の影響で中止をしたが、今年5月コロナウイルス感染症の扱いが5類になり、マスクの着脱も個人判断に任せられるようになった。活動が自由になった。大いに喜ばしいことである。

今年の山は、くじゅう山系「崩平山 Mt1288.4m」である。台風6号(特に珍しい迷走台風)の北上により天候が危ぶまれたが、朝日台レストハウス駐車場はほぼ満車状態となった。8月11日(木)朝9時30分から受付。参加者は総勢72名であった。受付では山の日のパフレットや記念品などの資料を配布し、午前10時00分から開会セレモニーを行った。セレモニーでは大会実行委員長(日本山岳会東九州支部 安東支部長)があいさつ、続いて登山中の注意事項を(大分県山岳連盟 原会長)が伝えた。

10時10分過ぎ登山開始、足元の悪い中林道歩き、所々のぬかるみを巻きながら登山口へ約20分移動。小休止した後山頂へ向かう。登山道は降雨の後で柔らかく歩き難くスローペースで登る。急登はないものの一辺倒の登りである。11時50分頃山頂へ全員到着。晴天の展望を楽しんだ。頂上ではそれぞれ食事を済ませ全員で記念撮影行った後、解散し下山はグループ毎に各々行ない受付時の駐車場で下山確認を行った。事故もなくすべての行事を終えた。参加者は、直前の台風、コロナの影響もあり前回より多少少なかった。この行事を通じて少しでも多くの人たちが山に親しみをもち、山登りを続けて貰いたいと願います。



崩平山登山口で

## 第20回青少年体験登山大会

佐藤裕之 (16315)

2023年9月10日(日) 曇り後雨

午後から雨の予報であったが、下山までは何とかもつだろうとの判断で、予定通り開催した。今年にはバスはなし。一部、参加費を上げてお茶を配ることにした。

8時35分、出発。総勢45人の大部隊である。途中、体調不良により下山した方があったが、桜井さんに付き沿ってもらって下山する。本人は、牧ノ戸で休憩している間に体調も戻ったようである。

猛暑が続いているが、今日は曇りのこともあり、それほど暑さは感じられない。気持ちの良い山行となる。天気気がかりなので、しょっちゅう



天気情報をチェックする。

11時過ぎ、山頂着。ちょうどのんびり、元氣、健脚の各グループが同時に山頂に滞在することになったので、全員で集合写真を撮る。

下山中、沓掛の手前で、ぽつぽつ降ったりやんだりの不安定な天気になるが、大半の者は何とか濡れずに下山した。のんびりの最終組が最後に雨に遭ったのは、気の毒であった。初めの1人を除き、特に怪我や体調を崩した者もなく、無事終了した。予想通り雨が降り、すっきりする(?)とともに、それほどの影響のなかったことにほっとした。

反省点として肝心の青少年の登山が少なく、今回2人のみであったことがある。

支部参加者：鹿島、下川、櫻井、今川、中野稔・中野梨、神田、佐藤彰・佐藤裕・佐藤美、河野、大渡、平原瑞、清水、宮原、飯田勝、飯田ひ

## 犬ヶ岳(1130.9m)

## 求菩提山(782m)

### 7月 月例山行報告

井村 ゆり子(会友 259)

2023年7月16日(日)

私は今回の犬ヶ岳登山で5回目となる。大分県と福岡県の県境にある犬ヶ岳はブナ等の自然林の中の稜線歩きが心地よく、四季を通じて楽しめる。その中で笈吊岩はスリリングな刺激をくれる。その登山ルートは、①耶馬溪相の原から笈吊峠を経由するコース、②県境野峠からのコース、③福岡県側のコース(ウグイス谷と恐ヶ淵を周回)がある。私が好きなのは、福岡県側からの周回コース。しかし、今回は犬ヶ岳と山岳信仰で有名な求菩提山まで縦走するという健脚向けのコース。わくわくしながら参加した。

天気は晴天で、朝から熱中症警戒アラートが出されていた。求菩提資料館前バス停に集合し車で犬ヶ岳登山口へ移動。参加者の早めの集合で予定より30分早く7時に犬ヶ岳登山口を出発できた。参加者19名。先日の大雨の被害を確認しながら登山道を進んだが、犬ヶ岳の登山道はそれ程被害がないと思われた。ウグイス谷舟石を過ぎる頃から徐々に傾斜が急となり、林道手前から笈吊峠までは何回かの休憩が必要だった。笈吊岩では、第1の鎖組と迂回路組とに別れた。以前笈吊岩上部は手こずった記憶があるが、右のキワを攻めると以外とスムーズに登れた。

稜線はツクシシャクナゲの自生地時期の華やかさを想像させた。また、暑さの盛りというのに稜線が意外と涼しく、ヒグラシの鳴き声が響いていた。釈迦岳(ピーク表示なし)経由して、避難小屋のある犬ヶ岳の頂上に着いたのは10時24分。20分程の昼食休憩の後集合写真を撮り出発。もう少し長い休憩時間を望む声もあったが、稜線の風は涼しくこの時間で体は冷え切っていた。

その後アップダウンの稜線を歩き、恐ヶ淵の分岐がある大竿峠11時26分着。ここからエスケープする選択肢もあったが、皆一様に前を向いていた。登山教室出身者は強いと感じた。一ノ岳手



前の小ピークから見た縦走路はため息が出るくらい見事に長く延びていた。この時に恐ヶ淵へ下れば良かったと後悔した者もいたのではないかと思う。一ノ岳着 11 時 42 分。小休止後いよいよ求菩提山への縦走となる。

一ノ岳を過ぎて少しずつ皆に疲労色が見えてきた。ここでアクシデント。経読林道との交差点過ぎて、Y氏が足を滑らせ足を痛めた。幸いY氏はゆっくりと自力で歩けたので、中野さんと山田さん(看護師)が付き添い求菩提山のピークに登らずに登山口に下る判断となった。

その後左側の植林が伐採され日差しが熱く照りつけ、体力を奪われた。しかし途中「杉の宿」「虎の宿」等山伏の峰入りの跡があり、古に思いを馳せ前に進む。胎蔵界護摩場跡で求菩提登山口への分岐となる。分岐から15分程で14時25分求菩提山頂上に着く。皆に安堵の表情が見えた。20分の休憩の後、850段の鬼の石段を下る。疲れた足にはこの石段と登山口までの急な石段は堪えた。リーダーの適度な歩行速度と皆の頑張りですべて通り15時55分駐車場着。私の中で、わくわくが満足となった瞬間だ。しかし、最終的にY氏達が下山できたのは1時間後。最後まで自力で下山ができ良かった。

(YAMAP 活動データ)

距離 11.0 km 登り 1162 ㍓ 下り 1209 ㍓  
行動時間 8 時間 45 分 (休憩 2 時間 13 分)

最後に、今回の様な縦走コースでは、エスケープルートの有無が重要だと感じた。特に後半疲れや気の緩みでの転倒等で怪我のリスクが上が

る。また、傷めた足の処置について、最近の山行で救急法の講義を受けた参加者からも、色々な処置方法が提示された。しかし本人が怪我の状態を把握できていなかった事で、適切な処置ができなかった。本人の怪我の状況把握も大切だと感じた。

参加者：鹿島、今川、田口、興梶、山田、井村、中野稔、中野梨、矢野、諸田、吉田、佐藤裕、佐藤美、三重野、坂田、上橋、櫻井、古中、神田

## 平尾台・貫山(711.7m)

### 9月 月例山行報告

興梶 晃子 (会友 268)

2023年9月17日(日曜日)

貫山(標高712m)は北九州小倉南区にあるカルスト台地、平尾台の北端に位置する貫山地の主峰、平尾台は国の天然記念物、日本の三大カルスト台地のひとつ。

8:00 吹上峠駐車場集合。駐車場移動。午後から雨の予報で、予定より早く到着するコースに変更

8:15 茶ヶ床園地 スタート →四方台(619m) →貫山(712m) →四方台 →周防台(609m) →桶ヶ辻(569m) →天狗岩(436m) →  
13:45 茶ヶ床園地・ゴール(距離8.5km 5時間31分(休憩時間1時間24分))

朝は時間に遅れずに集合場所に到着して安堵しました。スタート時は曇り空で、今にも雨が降りそうでした。雷がゴロゴロ鳴って、雨が降り始めました。途中でレインコートを着ました。何十分くらい歩いた時に雨が止みました。途中でレインコートを脱ぎました。雨で地面が滑りやすくなっていました。おしゃべりをしながら歩いていると、いつの間にか、貫山の頂上に着きました。空はすっかり晴れていて、展望が良くて、苅田北九州空港が見えました。四方台から周防台に行く途中に、前の人と少しの間があいてしまい、前の人を歩いていたつもりでしたが違う方向に行ってしまうと、後ろの方が、方向が違うことに気がついてくれて、すぐに声をかけてくれたので、隊列に戻る事が出来まし



た。それまでの下り坂が滑りやすかったり、真っ直ぐな道でも、石や岩がごつごつして、地面に集中していたら、道が分かっていたことに気が付かずに歩いていました。ススキや背丈ほどの草が視界を狭くしていたのもあると思います。方向が違うことに気が付いてくださった方たちに感謝です。

桶ヶ辻は草の茂みの中を長い距離歩きました。急斜面も茂っていました。

展望の良い所で、約20分のランチタイムでした。帰りの下り坂の時には涼しい風が吹いていて、秋の訪れを感じました。帰りのコースは、地面が乾いていて日陰も少しあって歩きやすかったです。

約5時間半の行程でした。雨も途中で止み、展望が良く、景色が見られたので良かったです。日が照ると、暑かったです。

参加者 25名(内3名は短縮コース) 鹿島(CL)、今川、田口、興梶、山田、井村、青木、中野稔(SL)、中野梨、吉田、佐藤裕、佐藤美、飛高、河村、丸井、櫻井、古谷耕、古谷あ、平原瑞、河津、下川、函師、飯田勝、宮原、遠江

有様であった。昨年の参加者は曲がりなりにも南平台経由で下山したが、今年は4人がロープウエーで下山した。体力差は、個々人で異なり、ある人には楽ちな山でも、ある人には辛くなる。登ってみたいと分からないことで、なかなか難しい。

せめて、ロープウエーがあって良かったと思う。来年度はもう少し楽な山を選ぶ必要があるかもしれない。



曇り 標高差 870m

支部参加者：安東、鹿島、下川 中野稔、中野梨、櫻井、佐藤裕、佐藤美、笠井、上野(10人)

受講生 12人

## 第36回全国支部懇談会 参加報告

「近くて良い山 谷川岳に集う」

鹿島正隆 (11546)

### 登山教室・実践講座

#### 鶴見岳(1374.6m)

佐藤裕之 (16315)

2023年5月28日(日)

テーマ 登山の基本を知る。

登山の基本ということで、よく整備され、急登や岩場もある鶴見岳に登る。

難しい山ではないが、標高差はそれなりにあり、途中で1人の参加者が消耗したので、2人を付けたが、山頂にたどり着いたときは疲労困憊の

2023年9月23日(土)・24日(日)

今年の全国支部懇談会は群馬支部主催で行われた。会場は群馬県利根郡みなかみ町「坐山みなかみ(旧水上荘)」。全国から162名の参加。九州からは北九州支部6名、東九州支部1名、宮崎支部5名であった。

初日16時30分より17時30分まで講演会。講師は群馬県警察谷川岳警備隊長伊藤武氏、演題は「今、谷川岳で考える安全登山」であった。具体的な遭難事例を紹介しながら、警備隊の活動が紹介され、生々しい事故現場での救助の様子が紹介された。

懇親会は18時30分から20時30分まで行われた。オープニングのアトラクションでは三國太鼓が紹介され、群馬支部長、橋本しおり会長、みなかみ町長の歓迎の言葉、祝辞を頂き懇親会が始まった。各支部から差し入れられたお酒も多数披露され盛会であった。部屋は千葉支部の方々と同室で、2次会も盛会であった。

2日目は、8時にホテルを出発し、谷川インフォメーションセンターへバスで移動。近県の方々は車で来られていて、私は千葉支部の方に同乗させていただいた。9時から2時間半ほど、一ノ倉沢出会いまで、散策した。天気も良く、マチガ沢、一ノ倉沢の景観は素晴らしく、谷川岳トマノ耳も眺められた。谷川インフォメーションセンターに11時半に到着。お弁当が配られ、センター周辺で昼食。その後解散となった。帰りも途中まで、千葉支部の皆さんに送ってもらい、大変お世話になりました。

来年度の第37回全国支部懇談会は神奈川県主催で、2024年5月25日(土)・26日(日)、神奈川県平塚市「グランドホテル神奈中平塚」で開催される。2日目のハイキングは三浦アルプスほかとなっている。来年度は、東九州支部からも多数参加したいものです。群馬支部のみなさま、大変ありがとうございました。素晴らしい支部懇談会でした。



## 祖母山・傾山・大崩山のグレーディング調査に参加して

笠井美世(16883)

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会事務局は、現在、大分県生活環境部、自然保護推進室内にあり、より安全な登山情報を提供する観点から、登山道のコース毎に山のグレーディングを決め、登山者に周知しようと計画を始めた。それは、体力度と技術的難易度からなっている。

体力度は鹿屋体育大学 山本正嘉教授の「ルート定数」をもとにランク付けされる。

技術的困難度は、登山道の状況と登山者に求められる技術・能力によりA<★>からE<★★★★>までの5段階にランク付けされる。

この祖母・傾・大崩のグレーディング調査は、日本山岳会東九州支部と宮崎山岳会に委託され、この山系に詳しいメンバーで、データ作成、調査が必要なルートには試登を行っている。以下に、試登調査の報告を掲載します。(安東 記)

### 上見立登山口から兜巾岳

2023年9月29日(金) 参加：安東・上野・笠井

山のグレーディングは、登山道別に必要な体力度と難易度を評価したもので、登山ルートの難易度を情報提供し、登山者が「自分の力量にあった山選び」をすることにより山岳遭難事故の防止に



役立つものとあった。2014年に長野県が始め、山を比較する全国基準となる「ものさし」を作った。大分県は祖母・傾・大崩ユネスコエコパークで山のグレーディング調査を始め、東九州支部が受けることになった。今年はコロナ禍が明け、山岳遭難急増と報道されている。そんな折、



山深い日之影町の兜巾岳のグレーディング調査に同行した。

県道6号沿いの上見立登山口を7:45に出発した。沢沿いを歩く。登山道は実線の幅員3m未満の道路だが廃道となっていた。標高750m付近か



らは石を積み上げた擁壁が並び、風呂や竈などが残っていた。墓地を過ぎ橋脚跡を徒渉すると大きな杉が立つ神社の跡に出た。標高950mを過ぎる頃には坑道口が現れた。地形図では岩崖になっている。坑道口から水が流れだし、沢の石はオレンジ色に変色している。標高1000m付近の坑道のようなトンネルを抜け、兜巾岳の尾根にトラバースした。トラロープを目印に登るが、急登の上に岩が滑る。落石も起こり緊張が続く。ようやく尾根に出て、ふと見上げた木々の間から名前通りの兜巾岳が見えた。シャクナゲの間を歩き1480mの山頂に11:20に到着した。南は五葉岳、北には祖母傾山系が見渡せた。下山は来た道を下り15:00に上見立登山口に到着した。

私は下山中、足がつり始めた。暑い中、標高差950mも歩くのに水が足りなかった。難所がありヘルメットも必要だった。登山道がわかりにくい



上に赤いテープも不確かだった。木の橋や足場が悪い箇所もあり、小さなものも含めると徒渉が8回もあった。道迷いや事故につながるのではないかと、安東支部長のグレーディングは難易度の高い「D」となった。

写真で見た見立鉢山の様子は想像もできないほど朽ち果てていた。登山道が整備され歴史を感じながら安全に歩くことができるようになればと思った。

## 支部講習会 (小鳥谷沢登り) (実践編)

寺道 和代 (会友262)

日時：2023年8月19日(土)

場所：祖母山 神原溪谷小鳥谷

コースタイム：祖母山神原登山口ー合目駐車場(標高680m)7:00→五合目小屋(860m)7:25→(上部入沢)(970m)7:30→途中終了(1200m)11:00→登山道下山→神原登山口ー合目駐車場13:00

東九州支部では毎年、沢登りの講習会も実践されているのはご存じですか？

沢登りと言うと、涼しいイメージがある反面、増水、転倒滑落、低体温症、道迷いなどの危ない危険性のリスクも高くなるため『私のような者が・・・』と興味はあるけど、やったことがない方

も多いのでは無いでしょうか。今回私も途中で足がつってしまい、メンバーの皆様に迷惑かけたのですが、皆様にお勧めします。夏の暑い山中で爽やかな清涼感を味わえる沢



登りを頼もしい先輩方と一緒に挑戦してみませんか。

準備して、五合目小屋の裏まで林道を登っていく。眼下に美しい谷の景色が見え、水量が多いのだろう、沢が時折、ゴゴゴゴと耳に響いてくる。初めて小鳥谷の沢登りにワクワク。一刻も早く入渓したい。



今日のメンバーの顔ぶれに安心感満載で足を進める。途中安東支部長さんが『通常ここの

枯沢のところは水が無いが、今日は水があるという事は水の量が多いと覚えておくとよいですよ!』との情報も手に入れ、五合目小屋の裏の分岐部分で入渓。ポツポツ雨が降ってはいたが、全く気にならない。不規則に並んだ大小のすべすべした岩の間を、濁りの無い美しい水が、キラキラと流れる溪相を序盤から堪能。その中を7人のメンバーが、3チームに分かれて清流に足を浸して進んでいく。

最初の滝に遭遇、去年から沢登りを開始したとは思えない川村夫妻がバリバリと登っていく。今年はこれが7本目の沢であると言う。次に先鋭組、そして頼もしい田所氏に引き上げていただいたの私である。途中、流芯部分もあり、冷たい!



と思いつつも、ベテランのT氏が上で落ちないように確保してくれていると思うと、足場はあり、登ることは全く怖くは無かった。

滝を登り上がるとまたしばらくは、日本庭園を思わせるような、溪流美が楽しめる。

2つめの大きな滝、見るからにそびえ立つ滝である。田所氏が滝の登攀。足場が全くない。あっても、沢靴では困難な5mmくらいの隙間である。川村氏・上野氏が滝の上部に巻いてロープを確保。半分ほど登られたものの、危ないと判断し全員で巻くことになった。

私と言えば情けない話、小さな滝で右足をあげた瞬間! あっ! 痛い! と叫んでのこむらがえり。全く動けなくなってしまった。予防に『芍薬甘草湯』を服薬して来ていたが、下山までこわばりがとれることは無かった。そのため、メンバーの皆様も国見峠までは進まず、昼食をそこで済ませて、下山となった。

沢水の中に入るため、半身~全身が水に濡れます。装備も水に浸かります。ヘルメットやハーネスなどの登攀具が必要ではありますが、新しい山の魅力を経験者と一緒に体験してみませんか。あなたの山への好きが、さらに深まること間違いありません。

参加者: 安東 田所 佐藤 上野 寺道、川村寅 川村美

## 支部講習会 (日出の岩場) (研修会を兼ねる)

生野栄城 (会友78)

○期日: 2023年9月2日(土)

○場所: 日出町 石鎚神社の岩

○コース: 日出町黒岩グラウンド駐車場 8:

20→石鎚神社の岩 8:40~16:30

### ■研修内容

講師より①ロープの結び方等岩登りの前に必要な事前準備について説明・実演、②リードクライ

マーをビレイヤーが救助する技術実演が行われ、  
③その後岩壁登攀の実践を行った。

### 1 ロープの結び方

- ・8の字結び



主な使用目的はロープ末端をハーネスに結着すること。注意点は結び目はハーネスに近づけ末端処理を行うこと。

- ・クローブヒッチ

主な使用目的はビレイする際に自らの体をロープで支点に固定すること。注意点はロープは長すぎないように。転落してしまうため。

### 2 リードクライマーをビレイヤーが救助(ダブルロープで実演)

(1) リードクライマーが途中で滑落・負傷し自分で動けないときに、ビレイヤーが墜落者に合流して救助する技術

#### ①ビレイヤーはビレイデバイスの荷重を開放

別途準備したスリングなどで、プルーシックなどのフリクションヒッチにより支点にロープを固定する。

#### ②墜落者に合流

ビレイヤーはタイプロック(ペツル社製)やプルーシックなどフリクションヒッチにより安全を確保しつつ墜落者の体重を利用してロープを登る。

#### ③カウンターラペリングで下降

墜落者と合流したらカウンターラペリングに不要なロープをナイフで切断。スリングなどで、プルーシックなどのフリクションヒッチにより互いを連結し、墜落者と釣り合いをとりつつ懸垂下降する。

#### (2) 体験・実演!ロープをナイフで切断

荷重のかかったロープはナイフで触れたくらいで切れることを確認

### 3 岩壁を登る

#### (1) 登り方・降り方

- ・使用前にロープを繰って痛んでいるところがないか確認をする。
- ・手でなく足で登ること。立ち上がる時には置いた足に重心をおく!先行して登るクライマーの足の置き方や体重移動をよく観察するように!
- ・懸垂下降では壁を歩くように足元を見ることを忘れずに。(お尻から降りるつもりで)

#### (2) 実践

「トップロープで練習」「1ピッチを2人で」

「2ピッチを3人で」

#### ■別のゲレンデ(奥)で人工登攀?チャレンジ

岩壁は濡れておりフリクションが利かない中、田所さんがスカイフックなどを活用しつつ「トップロープ」を設置。その後、幾人かで岩壁登りをチャレンジ。

スリング等でその場で作成した「あぶみ」も活用。スカイフックの活用やあぶみの乗り換えによる人工登攀の練習場の様相となった。あぶみについては、講師より以下の指導があった。

#### 1 あぶみの利用



・架け替えにおいては、足をのせ立ち上がるに、その前に荷重をかけていたあぶみを回収する。そうしないと、立ったり座ったりの動作を余分にすることになる。

- ・回収し手にしたあぶみはそのまま、次の支点にかけることを検討する。

#### ※スリングによるあぶみの作り方

・使用するスリングは、スリングの端を持って手を挙げた際に、ひざ頭くらいに届くくらいの長さのもの。

・一段の長さは、かかとから膝頭までの長さとし、8の字結び等で三段から四段を作る。

- ・結ぶにあっては、左右の長さを変えて、足を置きやすいように工夫する。

## 2 スカイフックの利用(皆で納得)

・エッジにひっかけて使うものであるが、手前に引っ張ってはいけない。フック下のあぶみに乗るときは、慎重に荷重する。

講師の安東支部長には、多くの技術を指導いただきありがとうございました。今後参加者各々には身に着けるべく研鑽が求められるところです。また田所さんには、野外用蚊取り線香をご準備いただきました。おかげで蚊が寄ってこず、研修に集中することができました。別のゲレンデ(奥)のトライ含め、ホントありがとうございました。  
参加者：安東、田所、笠井、安部、生野、飛高、上野、佐藤美和子、寺道、河村、一般1名

## 支部講習会(尺間嶽)

橋本 桂(準会員 A0488)

2023年10月1日(日)

初秋になり、空気が澄んできた。朝起きたら小雨が降っていた。本来なら、皿内城山での研修だったが、朝からの雨で急遽変更。安東支部長が天気図を見て城山からは、少し北上した野津原の尺間嶽に変更となる。

佐伯市の尺間山は有名だが、野津原の尺間嶽も地元集落から信仰を集める神聖なお山である。何のおさらいもなかったが、それが逆にワクワクした気持ちになった。

県民の森駐車場を過ぎて、尺間神社駐車場に、7時半到着。ミーティングを行う。秋は蜂が活発になるため、エピペン、ポイズンリムーバー講習など安全対策を確認する。はじめに、登山口にある尺間神社に安全を祈願する。安東支部長がグループ分けを行う。2人1組となり、4グループ編成となる。8時に出発し、奥の院を目指す。かつて栄えたであろう、石段も、今では荒廃し、階段を上がるというよりは、階段を這うという表現が正しいようなルートだった。昔の人はどんな気持ちで登ったのかな…など、呑気に古へ想いを馳せて心静かに参道を歩きたかったが、尺間の神様はそうはさせてはくれなかった。奥の院に続く道

の崩壊が激しく、3点支持で落ちないように集中することで精一杯。なかなか鍛えられた参道だった。全員無事に奥の院に着いた時はほっと一安心。奥の院で皆で参拝したあとは、軽く昼食を摂る。奥の院から先はバリエーションルート。地図読みをしたり、懸垂下降を行うルートとなる。20メートルほどの懸垂下降を2回行う。懸垂下降では、安東支部長に、最後に私が降りると言う順番を仰せつける。最後に降りると言う事はどんな事だろう。他人任せではなく、ひとりで懸垂下降を行うのだ。下降器の確認。セルフビレイの解除、残置のないよう全て確認。下のメンバーとしっかりコールすること。ヒューマンエラーのないように、落ちたらどうなるのか…イメージしながら危機感を持って懸垂下降を行う。ひとつひとつの動作をひとりで行った。久しぶりの懸垂下降で緊張したが落ち着いて降りる事ができた。そのあとは、日平山などのピークを踏みながら下山。途中、アケビの実がなっていた。笠井さんがアケビを食べたことがないと話した最中、アケビ取り合戦が始まる。童心に戻って皆がやや、高い場所にあるアケビを夢中でとった。やっとこさ採取したアケビはほんのり甘い味がして忘れられない思い出となった。

13時30分には下山。

学びの多い研修山行だった。尺間様のおかげで帰りは神聖な気持ちになった。

参加者 安東、中野穂、佐藤裕、笠井、中野梨、橋本、上野、佐藤美



個人投稿

## ペンリレー・第47回

### 「山を人生を冒険」

今川 美智子 (15735)

私が単身別府に移住して来てかれこれ10年になる。当時登山にはそれ程ハマってなくて、毎日温泉へ入るためだったのだ。それから縁あって東九州支部入門講座2期生として受講、今に至る。

加藤元支部長の元で大分百山を達成した事は、思った以上に嬉しかった。若手の私はだいたいドライバーとして駆り出され土地勘がないけど、ヤレ右へ行け左へ行け、そこを上がれ下がれと指図されたおかげで今ではどんな場所へも行けるようになってしまった。それはこの上なく自由でハッピーの事だと思う。

山は人生における大事な事を教えてくれる。移ろう四季の様子、その自然の中に佇む瞬間の有難さ、旬の草花に出会えた喜び、山仲間との語らい、強者の先輩達の体験談温泉等私にとって至福の時だ。

数年前、長野県と群馬県に跨る四阿山に独りで登った時、蛇見たら絶叫してしまう私が出逢ったのは紛れもなく日本カモシカだった。初めはかなり遠くにいたのに、あれよあれよという間に近寄って来て私と目が合い「何だ、人間か」という顔で何処かに去って行ったけど私はたじろいだ。

紅葉の浅間山のカラマツにまた遇いたくて昨年出かけた。5年前は火山噴火警戒レベルが2だったので周辺の黒斑山～蛇骨岳～仙人岳～Jバンドを歩いた。その時は、レベル1になっていたのので前掛山まで行く事が出来た。黄色のカラマツ群はカナダを思い出させる素晴らしい紅葉だ。時々その黄色の雨が私の頭に降り注

思えば色んな出来事があった。身の危険を感じた事も数回ある。山は何があるか行ってみなくちゃ判らない。リスクのない人生なんて有り得ない。これからも山を旅して行く。そう、まだまだ見たことのない世界を見てみたい。出逢いたい。山も旅も日常からのエスケープだ。冒険だ。

※ペンリレー・今回は江藤幸夫さん(8572) お願いしました。お楽しみに。



より安全な登山のために No.51  
ボルト外れ 5m 落下  
クライミング中に墜落提訴へ  
安東 桂三 (9193)

提訴の記事が掲載された。興味をもって調べた。それは、クライミング中の事故の記事で、場所は埼玉県小鹿野町の二子山(1166m)。昨年9月25日、二子山西岳のローソク岩ルート「黄昏を追いかけて」で、ボルト周辺の岩ごと剥がれ落ち、東京都内に住む男性59歳(クライミング歴30年)が、5m墜落し、ロープをクリップしていたため、墜落とともに両足を骨折。この事故

9月の中旬に、メディアにクライミング事故の

で、3回手術をし、55日間入院、退院後も2ヶ月通院したとして、治療費は、傷害保険で支払われたため、慰謝料などを求めている。

この男性は、岩場を整備する小鹿野クライミング協会と小鹿野町を相手に提訴している。この協会は一般社団法人で、2020年に発足し、現在の会長・代表理事は平山ユージさん。平山さんは、日本山岳・スポーツクライミング協会の副会長であり、日本のプロフリークライマーである。この協会発足以前には、平山さんが、クライミングによる町おこしの企画書を提案し、町の観光大使に平山さんが就任したいきさつもある。2019年には、小鹿野町は「クライミングによるまちおこし」を新規事業に掲げていて、この協会と町には関係ある。

また、協会は事故後、当該ルートへのハンガーを外し、当面登れないようにする対応をした。現在、第一回口頭弁論が終わったところで、訴状には「協会が事故の起きたルートを開拓し、ボルトを設置した」「埋設されたボルトの位置や種類が不適切」と主張し、二子山のクライミングルートの開拓や再生を行う協会は、事故が起きたルートについても安全性を保つ管理義務や注意義務を負っていた。また、町もこの協会の活動に関与しているとしている。

一方、協会は「クライミングは危険を伴うスポーツ。事故は自己責任」としている。

町は「二子山でのクライミングは、まちおこしの事業ではない」と答弁書を提出している。

以上が、現在の状況だが、我々、山に登り、クライミングをする側からすると、このような訴訟は起きて欲しくないと思う。山には、あるいは、岩には、必ず地権者がいて、クライミングルートにしても、登山道にしても、地権者の了解を得て、ルート開拓したり、整備したりをボランティアでやっている。それらを知って、歩かせていただいたり、登らせていただいたりしている。我々もしクライミング中でも、ボルトなどの不備があれば、それを修復したり、当該ルートの管理者に通報したりして事故が起きないようにと対処している。

ところが、道迷いにしても、残置テープのために迷ったとか、他人が配信した軌跡が間違っていたとか、ウェブ上で訴えることが見られる。また今回のように、訴訟まで起こってしまうこともあ

る。低山などで道普請をしても、テープを設置しても、あるいは危険個所に固定ロープを設置して、そこで、他人がケガでも負えば、極端な場合、法廷に出かけなければならないかもしれない。穏便にお願いしたい。また支部のメンバーには、いろいろなことが起こるかもしれないと自分の行動を注意深く、考えて行動をお願いしたい。

写真は、八面山の岩場に掲載された案内板、大分県においてもクライミングエリアで、クライマーのために、ボランティアでリポート作業が進んで、その利用者は感謝しながら、クライミングを楽しんでいる。自己責任と安全に注意。



## 山岳保険のすすめ

安東 桂三 (9193)

2023年7月25日号支部報→10月25日号

7月の支部役員会で、支部報に「山岳保険(通称)」のことを、誰かが書いたほうが良いとなった。そこで、今回、私の考えを書こうと思う。一般的に、山岳保険を考えるときに、特別な保険と考えず、皆が加入している保険から、導き出すと良いと思う。何かあったときに助けてくれるものだから。多くのドライバーが加入している自動車保険を例にとると、自動車保険は、2種類に分けられる。一つは、強制保険の自賠責保険、もう一つは、任意保険で、自賠責保険で補償されない部分を保障する。日本では、任意保険の加入率は約7割という。

3割が任意保険未加入となっているが、山登りでは、何割が未加入かと心配になってくる。自動車保険の自賠責では、事故を起こしたときに、相

手側の障害(障害、死亡、後遺障害)のみの補償しかなく、相手の車、自分の人身傷害、搭乗者傷害、自分の車両保障はない。市内を走っている車の任意保険に入っていない車が3割も存在するのだから、事故は避けたい。多くの人が車を運転し、一生涯に一度も事故を起こさないことはないと思う。起こしても、起こされても、大変な後始末になると思う。

山の場合。山での自分のアクシデント、道迷い・ケガなどで、他人の救助(公的も含む)が発生した時に、支払う費用。ケガや後遺症障害で発生する費用。この二つが想定されるが、もう一つ考えねばならないのが、相手に対する補償、例えば、自分のストックで、後ろを歩いている登山者の目を突き刺した場合、あるいは、落石を起こし、後ろに登っている登山者を直撃し、身体的ダメージを負わせた場合、このような場合にも、補償に費用が発生してしまう。

『山岳保険 おすすめ』とウェブ検索すると166万件も出てくる。最初に出てくるのは、スポンサー表示のある保険でこれは遭難時の捜索・救助費用の補償に特化した保険で、死亡、入院・通院、賠償責任は補償されない。コンビニ決済やクレジットカード払いも可能。

また、保険には、短期で加入できるものと、年間契約出来るものがある。短期では、1日で300円程度からd払いも出来る。年間契約は、数千円程度からある。

おすすめの保険はと言われると返答に困るので、ここでは述べないが、先に書いた3点(救済者費用、個人賠償、自分の入院・通院・死亡)が整った保険に入るべきと思う。また、それも短期でなく年間契約も必要と思う。短期では、掛け忘れたり、今日は低い山だからいいやとなってしまふ。

また、その保険のカバーする範囲も、自分の山の形態に合わせたものを選ばねばならない。その保険は、アイゼンピッケルロープを使用した場合には、支払いませんというのがある。それは、ハイキングと登攀を分けて考えていて、登山の形態に合わせて、プランをつくっているため。例えば、いつもは、九州大分の低山に登っているが、ゴールデンウィークに中央アルプスに出かけ、駒ヶ岳ロープウェイで、標高2600mまで上がり、アイゼンピッケルを装着し、ロープにつなが

って木曾駒ヶ岳に登ったときに、何らかのアクシデントが遭っても、保険のプランによっては、費用の支払いがないかもしれない。そこは、自分の登山形態と照らし合わせて、要確認。同様に海外のアクティビティ参加の場合も要確認。

先月、気になる遭難があった。はたして遭難か否かも難しい、もしかしたら蒸発かもしれないと思わせるようなことが起こった。それは、7月7日に「大雪山旭岳ロープウェイ」の従業員から「駐車場に長時間、車が放置されている」と警察に通報があった。これはレンタカーで、6月27日から、借りられていて、旭岳登山中に遭難した可能性もあり、捜索している。このニュースが出た時点で、すでに10日以上も経過していて、報道からは、登山計画書(届)の提出に触れてないので、登山したかもしれないし、そうではなく虚偽かもしれないと心配した。

また、このような場合、地元の警察や消防は、最初は捜索に出るが、もう生存の可能性がないと捜索などは縮小される。この費用は、表向きには無料と考える人が多いが、実際はその所轄の自治体の税金で賄っている。捜索が中止された時、家族あるいは親族は、お金に余裕があれば、とことん探すとなるが、そうでない場合、あきらめるとなるのか。この53歳の男性は、登山届を提出し、遭難しても早くに捜索に入っていれば、もしかしたら、大変な状況にならなかったかもしれない。保険に入っていれば、捜索費用の一部をカバーできたかもしれない。もし、私は死亡1億円の生命保険に入っているという人もいるかもしれないが、これは、死亡が確定してからではないと支払われない。

1か月以上もたって、未だにこの男性が出てきたとの報道はない。我々も考えねばならないこと。(2023.7.10 安東 記)

支部報103号が、発行されるときには、見つかっているだろうか。見つかっていなければ、雪の降る時期となってしまふ。(2023.10.1)

## JAC 古典「山岳」拾い読み No 1

### 阿蘇山の新噴火口

飯田 勝之(10912)

日本山岳会が結成されたのは1905年（明治38年）10月14日である。イギリス人宣教師ウォルター・ウエストン氏の勧めによって結成された日本で最初の登山同好会であるのはJAC会員皆の周知のことである。そして今日、年鑑機関誌として発行が続けられている「山岳」が翌年、1906年（明治39年）4月5日に第一号が発行されている。定価参拾五銭で一般にも市販されており、第二号がその年の6月5日、第三号が11月13日に発行され、それ以降毎年三回刊行され続けている。（今は年に一卷、年鑑として発行されている）

戦火激しくなりつつある1943年（昭和18年）9月10日に第三十七年第一号：通巻101号が出されたのが戦前の最後で、102号として再発行されたとは1948年（昭和23年）11月10日である。ちなみに戦前最後の101号の定価は参園である。

筆者の手元にはその第一号第一号から昭和18年の第三十七年第一号までの復刻版全37冊があるのだが、それらをめくってみると、ほとんどの記述が、北アルプス、南アルプス、中央アルプス、富士山をはじめ、中部、関東近郊の著名な山に関するもので埋まっており、加えて東北や北海道の山や台湾の新高山などが度々登場するのだが、大分県はもとより、九州の山に関するものはごくまれに見受けられるだけである。

何しろ関東や関西をはじめ、都会地の裕福な御仁の登山同好会の会報なので、その編集は所詮の成りゆきであろうことは想像に難くない。

九州の山に関する記述が初めて登場するのは、一年目の第三号の雑報欄で「阿蘇山の新噴火口」と題して、登山記録ではなく噴火の様子が山のニュースとして10行で登場するのが最初である。次いで二年目の第一号に「霧島山登山」と初めて登山記録が登場するのだ。その後、同年号の第二号に「九州の二高山」と題し鶴見岳と阿蘇山の山行記が登場し、一年後の第三号の第一号に「英彦山の裏道」と題し日田から岳滅鬼峠、鬼杉経由で登った記録が登場し、その号の雑報欄に「九州



山岳第一号の表紙

高山の高度」と題し久住山から英彦山までの35座の名前と高度と位置が一覧表で紹介されている。そしてその年の第二号に「由布登山記」と題した山行記が載っているくらいで、最初の三年全九号、約一万五千ページの中で以上の通りであらう。

参考までに、親入会員紹介欄を見ると東京、京都、大阪などその周辺県が多く、なぜか新潟県が非常に多いのが目に付くが、大分県の名が最初に載っているのは三年目第一号で（今泉勝治氏）その後もしばらく見当たらない。

筆者はこれから何回に分けて、この古い「山岳」の中に散見される九州と大分県の山に関する記述を拾い読みして紹介してみようと思う。

「阿蘇山の新噴火口」（第一年三号（明治39年11月）（雑報欄）

「6月7日午後二時頃阿蘇山麓にて俄然凄じき鳴動を発し続て山嶺に白煙うす巻き起り後黒煙と変じ常に日光を遮り付近は地震絶へず灰燼及び土砂を飛ばし往々尺余の大石を数丈の高きに噴出し壯絶な有様・・・」との記述に始まり、「噴煙の静まるにつれ火口付近を観測し見れば旧火口より約



三丁へだて千里浜と称する砂漠様の箇所<sup>①</sup>に新火口噴出するを発見・・・と、新噴火口が出来た帰途だけ伝えている。  
 次回は「霧島山登山」の記録を紹介しよう。

## 山の事故の法的責任

登山の指針と紛争予防のために(解説)

安部可人(会友3)

東九州支部の月例登山で事故があった場合、リーダーの責任はどうなるのか、明確に説明したい。私もこの本で初めて知った。

漠然としてリーダーには責任があると思っていたが、殆んどあらゆる場合全く無罪なのだ。(安心してリーダーを引き受けてください。)

(この本は、溝手康史という東大出の弁護士が、200冊に及び参考文献を駆使して、類のない名著です、信用できます)

(1) 東九州支部月例登山の場合 「山岳会は会員が集まって仲間として登山を楽しむことを目的とする団体であり、会員契約は、山岳会もしくはリーダーが会員の安全を確保する義務を負うことを含まない(責任はない)」「リーダーの地位は参加者からの委任によるが、その内容は参加者の安全を確保することまで含まれない(安全まで考えんでよい)」\*道義的責任を感じて、ロープで確保は自発的行動であろう。

「登山道での転落、滑落、天候判断、沢の増水、雪崩、装備に関する判断などについて、リーダーに参加者の安全を確保することまでふくまれない」

(考察) どの山行でも岩崖の難場では、ベテランが率先してロープで確保して、過剰に法的な注意義務をはたしている。会報報告でその様子は理解している。

山岳会や友人間の事故では、一般事故者は、リーダーに対して済まない、迷惑をかけたという気持ちだ。殆んど仲間同士の山行ではそうになっている。山岳遭難の本はたくさん読んだが、遺族は感謝こそすれ、法律の根拠もない勝訴しない訴訟を起こした例は読まない。

ところが、全くの他人を引率するガイド登山は、厳格になる。遺族とガイドも初めて会う他人同士だ。紙面をにぎわしたガイド登山事故も最近も読まない。ツアー登山は減ったようだ。ガイド

登山は関係ないので、ここではふれない。以下あり得ないことだが、参考にする。

民事裁判：まず注意すべきは、裁判は紛争解決のための制度であること(真相究明には限界がある、膨大な時間と金、不可能である)。だから山岳保険で自らを守るしかない。それで足りる。仲よし間ではまずないが、民事では示談で解決する。

刑事裁判：事実の認定が厳格になる。対象は主としてガイドである。不起訴にする場合は、過失を裏付ける証拠がない場合です。

起訴とは、事件を刑事裁判に付すをさす。起訴には、略式請求(通常は罰金)と公判請求がある(裁判)。屋久島の増水した溪谷で客3人を死なせたガイドは、業務上過失致死傷罪で起訴され、禁固3年、執行猶予5年の判決がだされた(平成18年)このガイドは、損害責任保険に加入していなかった、即ち“示談”にする金がなかった。損害責任保険には殆んどどのガイドは加入しているはずだ。不起訴が多いが、執行猶予も多い。重大な事故では、“示談”はないようだ。(これくらいにする、自信がない) おわり

## こぎこぎ倶楽部

### 日田の県境稜線探索山行 熊渡山から松カブへ

飯田勝之(10912)

2023年8月20日(日)午前8時、集合場所の日田市前津江の奥日田スーパー林道の一石峠に集合場所に集まったのは、今日の参加者車4台、7名だ。先着していた櫻井車と清水車で、ひと足先に下山予定地の柚木のクラ谷林道の途中へ櫻井車をデポしてきた後の出会いだ。

一行はまずはスーパー林道の熊渡山とりつき地点へ移動。最初は山の北斜面の広い皆伐地に造られた作業道を踏み込んだが、その道の終点から先は急斜面と猛烈な棘草のヤブで、到底登れそうになるので引返す。

8時50分、改めて稜線の古い踏み跡道を登ることにした。9時40分熊渡山山頂に着く。2010年1月、こぎこぎメンバーでここよりカ

う迫山までピストンしたスタートの峰で、今日は反対方向へ縦走だ。

木立の中は風もなく蒸し暑いし、アブがいて、しつこく周りを舞うので山頂写真を撮って急ぎ山頂を後にする。



いきなり急斜面を下る。30m弱の下りが長く感じる。下りきるとゆったりしたアップダウンの始まりだ。県境稜線はブッシュもあまりなくて比較的歩き易い。10時20分過ぎ、934mの独標を通過。ここからかなりの下りが始まる。雨上がりの滑りやすい急斜面だ。

下りきるとほぼ平坦なのどかな稜線散歩で左手の木立の途切れからには熊渡川の谷を挟んで遠く石割岳が望まれた。

つきまとうアブを追いながらも、蒸し暑いので度々給水タイムをとる。10時55分過ぎ851mの独標を通過、ここからまたかなりの急斜面の下りとなる。下りきった鞍部の先の小高いところで、誰言うともなく空腹を訴え始めて昼食休憩とした、時刻は11時20分過ぎであった。あまり変化のない単調な稜線歩きでは弁当ぐらいが楽しみだ。いつの間にかアブが舞わなくなっていた。

再出発後40分余り、直角に左に向きを変えて登り切ったところが834mの独標である。12時25分、この小さなピークに「福岡県指定文化財」と書かれた白い標柱と「国境石」と書かれた立て札もあり、そのそばに苔むした四角の石が埋め込まれている。この県境稜線で点々の見受けられる豊後と筑後の国の境界石である。

独標から右に直角に向きを変えて下って行くと広い鞍部で、そこから緩く登り返して行ったら、前方に送電線鉄塔が見えて、その向こうには今日の終点の松カブ三角点ピークも見えている。そっちへ向かって明るい草尾根が続いているので軽い



気持ちで踏み込む。ところが到底漕ぎ分けられる代物の草やアブではないのだ。クマイチゴ、モミジバイチゴ、サルトリイバラ、ノイバラなどが入り乱れて、少し踏み込んだだけで先頭はほうほうのいで退却。わずかに引き返して、地図を見るとすぐそばに林道がある、

平らなヒノキ林を横切っていくと数分で林道に出た。そこは櫻井車をデポして

いる林道のほぼ終点に近い地点だ。時刻は13時ちょっと過ぎで、すぐ上には松カブ三角点のピークが見えるが、戦意喪失したメンバーは、そこへ行くこうかと声をかけても返事ない。今日はこままでだ。しかし、ここからがまた大変だ、長い林道歩きが待っている。荒れた砂利道の林道下り約一時間、櫻井車が待っていて、運転手だけ積んで熊渡山登り口の車を回収後、出野の四つ辻で解散となった。

参加者：飯田、櫻井、今川、大渡、清水道、平原瑞、飛高

## こぎこぎ倶楽部 日田の県境稜線探索山行 松カブから黒塚山へ

河村典子(会友263)

2023年9月24日

「シリーズ県境稜線歩き!!」へ参加させてもらった。日田市柚木の柚木多目的交流会館前に8時集合。参加者10名で車3台。集合場所からスタート地点まで車2台に乗り合わせて出発。リーダーの飯田さんから出発前に少し心配気味な面持ちで今回の女性運転手Mさんに「もし車がとまった

り、もう無理やと思ったらクラクション鳴らして。」とお言葉。私は内心「えっ!？」と思ったが女性ばかり5人でワイワイ楽しく話しながら前の車に続いた。ところが少し行くと驚く程の悪路で大小の石がゴロゴロあり水溜まりや大きな窪みだらけの道だった。全員車の座席からお尻が跳ね上がる状態で、いつ車が走行不能になってもおかしくない通行にはとても険しい難路であった。

登山ルートは《松カブ(839.6m)→黒塚山(878.6m)→独標(769m)→竹(3等)(797.3m)→注連原(しめばる)(531m)》を目標とした。以前リーダーは単独でこのコースの三角点のピークハントを全てしているが稜線ルートは未知とのこと。



松カブ三角点にて

8:40 松カブから登山開始。高圧線の鉄塔の真下をくぐり進行するが背丈より高く生い茂った草木に道を阻まれてここからは敢え無く断念し、作業道を少し引き返して再度アタック。急斜面のうえ足場も悪く土もボロボロと柔らかく登りにくかったが這いつくばり何とかコース上に辿り着いた。

常の山行と違い随時地図と自分の位置を確認しながら進行する。目が慣れてくると少しずつ方向とルートが見えてくる気がして、道なき道が線になって見える気がしたが実際はサブリーダーについて行ってるだけ。リーダー達でさえ、何度も地図と方向を確認しながら引き返したり方向転換したりと読み解きながら進行していた。本当にすごい。

9:20、1つ目の4等三角点「松カブ」発見。人工物が何もない山の中にポツンとコンクリートの三角点があると「あった〜!」とテンションが上がる。10:30 2つ目のポツンと三角点「黒塚山」。本当に三角点を見つけると嬉しい。

この感動を味わうためにリーダーの飯田さんは大分にある三角点2400箇所も探索して調査したのだろうか舌を巻いた。11:40 独標(769m)を素通りし何とか草を掻き分け林道を見つけ出し横断して行く。次の山も東は段差のある高い斜面、北は高く生い茂った草木の急斜面で、アタックした男性陣が各方面から引き返してくる状態。林道まで引き返して12:10 昼食にする。その後林道を行き迂回して途中からルートにアタックして、竹(3等)、注連原を目標にして行ったが、下山時間と車をデポしたところまで行く事を考慮して今日はここまで次はここから始まると確認して帰路へ。下山はショートカット約3.5キロのコンクリート道をひたすら歩いた。

今回の山行場所は日田市前津江町柚木というとても田舎の町(村)だった。自然豊かであったが少し違和感もあった。それは各場所に防犯カメラや防犯ブザーが多々ありこの地区全体で防犯対策をされているようだったからだ。リーダーより聞いた話だがこの辺り一帯は大半の山を和田氏という方が所有していて、住民はその山で働いて皆が豊かに暮らしていたとか。各民家の佇まいもどこなく気品がありきれいだった。最後にリーダーの知り合いであった、その和田氏の邸宅の見学へ。もう20年近く誰も住まれていない様だったがとても綺麗で素晴らしく大きな豪邸であった。

私は登山をするようになり、一生行く事がない場所へ連れて行ってもらえるようになった。登山をすることで近場でも遠方でもとてもワクワクする人生が送れるようになった。これからも色々な山行に参加させて頂きたいと改めて思った。  
参加者：飯田、櫻井、今川、丹生、神田、久知良平原瑞、古谷耕、飛高、河村

### 個人山行報告

奥穂高岳・鳥海山・餓鬼岳・鋸岳

佐藤裕之(16315)

連休に穂高に行く予定は当初全くなかったが、いつの間にか行くことになった。家内も溜沢へ行ってみたいということで、途中まで同行することとなる。

5月1日(月)

せっかくなので、東海道線安土駅で下車して、安土城(山)と観音寺城(山)を周回する。ハイキングと天下の名城見学が楽しめるというこの上ないコースである。

5月2日(火)

上高地でガイドの桑原氏と参加者2人と合流して、5人でのんびりと横尾をめざす。横尾までのコースが河川工事のせいか変更されており、今までより時間がかかる。本谷橋までは、夏道同然だが、ここからは、冬同然となる。

連れは、雪渓歩きの経験はあるが、本格的雪山の経験はない。当初、涸沢までの予定だったが、足取りもしっかりしていたので、ガイドに奥穂山荘までお願いしたところ、良からうということになった。

人伝に前穂で遭難事故があり、死者まで出ていることを知る。



5月3日(水) 天候晴れ

気持ちの良い雪景色の中、ザイテングラード東の小豆沢(?)を登る。急登ではあるが、12本爪のおかげで全く不安はない。連れもしっかりと登っている。

10時に奥穂山荘に到着。夏の穂高は何回か来ており、大したことはあるまいと高をくくっていたが、積雪時は別である。連れは、ここまでで十分、というので、小屋で蕎麦でも食べるように言い残して山頂に向かう。

傾斜のきつい雪壁が2箇所あるが、そこを抜けると快適な歩きとなる。

11時40分、山頂に到着。もう来ることもあるまいとしっかり景色を目に焼き付ける。山荘に



正面奥穂と右下山荘の屋根

降りてみると、連れは「涸沢岳は雪もなく、簡単と聞いたので、登ってきたという。」これで連れも3000mデビューである。下りもサクサクと降りる。

下山後、横尾

山荘に泊まる。改修されて快適になっている。

5月5日(金)

帰りがけ、せっかくなので、藤原岳に登る。山頂部はカルスト台地状になっており、変化があって面白い山である。(同行：会友・佐藤美和子)

## 鳥海山

6月・7月と岐阜、富山、山形の山々を登った。我ながらよく登るものだ。紙幅の関係で省略するが、鳥海山のみ報告する。

7月27日(木)

鳥海山最寄りの山小屋、鉾立山荘に泊まる。食事は出ないが、電子レンジに冷蔵庫まであり、自炊設備が充実した山小屋である。ロケーションも良く、良い山小屋だ。

7月28日(金) 鳥海山 天候晴れ

鉾立登山口から登る。山頂がすぐ近くに見え、2、3時間で登れそうだが、歩くほどに遠くなる。森林限界が低く、眺望に優れているが、その分暑熱も厳しい。道は良く整備され、歩きやすいが、頂上直下からは、優美な山容からは想像もつ



かない厳しい登りとなる。東北の山の盟主とも言え、1度は登るべき山であろう。

## 餓鬼岳

8月21日(月)

青木湖

昔、大系線から眺めて、1度テントを張りたかった青木湖キャンプ場に泊まる。湖畔の夕暮れはなかなか良い。若い時からの思いがまた一つかなった。

8月22日(火)

合戦尾根を登る。一段と歩きやすくなっている気がする。

これまで、前を通過するだけであった燕山荘に初めて泊まる。夕食時、オーナーの赤沼氏の解説とホルンの演奏があり、なかなか良い。

8月23日(水) 餓鬼岳



餓鬼岳に登る。始めは表銀座の延長のようなもので、快適だが、やがて道が荒れてきて、上り下りは想像以上のもので、大変な縦走になる。

剣ズリの岩場は思ったほど難しくはないが、失敗すれば即死である。

下山時、雨が降り出し、おまけに1300m前後では鎖場に蜀の栈道、沢で道が寸断されるなど、苦闘の連続で、近年にない厳しい行程となる。

餓鬼岳に登ったことで、南北中央アルプス、ハヶ岳の主な縦走路を全て歩くという自分にとっての一つの課題達成である。この悲願達成に50年近くかかった。北鎌やジャンダルムはもちろん、白根南嶺や野呂川越から三峰岳など、マイナーなルートも歩いた。基本、年に1回かせいぜい2回しか来れないが、細々と登り続けた結果である。心残りは、池口や安平路など、

「その先」を歩いていないことだが、どうやら時間がない。

## 鋸岳

8月24日(木)

南アルプススーパー林道(かつての俗称で、正式名ではない。以下、南ア林道という。)入口の仙流荘に泊まる。ここは、温泉もあり、伊那谷からの登山基地として最適である。

8月25日(金)

戸台口のバス乗り場に行ってみると、200人以上は並び、大盛況である。ここで、バスに乗り、丹溪入口で下車。降りたのは、我々2人のみであった。

丹溪への下山道は予想外に道も良く、南アらしい樹林帯で快適に降りられたが、川原に降りると右も左も分からず、基本、左岸沿いに下るのみ。時折、昔ながらの道が現れ、ほっとする。

ようやく、角兵衛沢登山口にたどり着き、テントを張る。管理されてない天場は、久しぶりだ。ここから、角兵衛沢を詰めるが、初めのうちは拍子抜けのするほど歩きやすい道だが、やがてガレ場を右に左にわたって登るようになり、消耗する。気力を振り絞り、山頂到着。残念ながら、視界が4分の1くらいしかない。あまりにも苦労したので、山頂を立ち去りがたいが、甲斐駒へ続く縦走路を見ても行きたいという気が起こってこない。歳月の経過と己の衰えを感じる。

下りも長く、テント場の直前で日が暮れた。テント持参で本当に良かった。

8月26日(土) 下山

(同行: 会友・佐藤貴之)



## 個人山行報告

### 金色溪谷沢登り

寺道 和代 (会友 262)

場所：八面山 金色溪谷

日時：令和5年9月3日(日)

コースタイム：箭山権現石舞台の駐車場【8：50】→金色溪谷入口(入溪)【9：00】→一ノ滝(退溪点)【10：50】→金色溪谷コース(登山道)→大池和与石分岐→和与石【11：30】→下山(箭山権現石舞台の駐車場まで)【12：30】

どこから山を眺めても同じ形に見えることから八面山と言われており、ハイキングや岩場、ボルダーが楽しめる素敵な山に、金色溪谷があり



ます。時間は無いけど、沢登り行きたい、楽しみたい！という方にピッタリな沢登りコースです。前日のクライミングに参加された先輩方が、快く連日参加してくださいました。

令和5年9月3日(日)、箭山権現石舞台の駐車場で、7人が沢靴に履き替える。

少し歩いて、金色溪谷入口から入溪。3チームに分かれて出発です。最初の滝は、ちょっと水量が多いと苦戦です。でも、自信が無ければ巻くこともできるので、大丈夫です。そのあとは、小さい滝、中くらいの滝、更に小さい



滝が、連続して現れて、短いコースなのに退屈しません。岩質が硬くて、しっかりと岩を掴めるし、適度な凹凸があって、ガッツリ沢靴も滑らず登っていただけます。水も

そんなに冷たくはありません。

最後に、滝を登っている感じが満載の一ノ滝を登りあがると、絶景が眼下に広がります。今回の沢登りはここで終了です。あっという間の1時間50分でした。休憩の間に安東支部長からいろんな形のハーケンを見せていただきました。その後、沢靴から登山靴に履き替え、沢沿



いに金色溪谷コースをハイキングです。神仏習合の歴史が感じられる和与石も触って、下山でした。行かれる際には、水質はそれほど上質ではありませんの

で、タオルと着替えは必須です。

大きな滝壺も無く、楽しめた沢登りでしたが、私には課題が残ります。コンティニュアンス時のロープの長さの調節と、登攀道具の正しい使い方等です。ロープを足元の岩で擦らない距離感が、上手くいかない。何度もロープを水に浸し、岩で擦ってしまいました。手の持っているロープの束の調節と、自分の歩速の調節が難しい。小さい沢でもパートナーとロープが繋がっている以上、自分の技術不足が安全のロープではなく、危険のロープになってしまう事が頭をよぎる。つくづく、上手くできない自分が情けなくなってしまう。次回は、上手くできるように、練習がまだまだ、必要な私です。

参加者：安東 田所 笠井 生野 上野 紺野 寺道



4時起床。朝の支度をしていると、管の台駐車場の長蛇の列に気づく。ロープウェイまでのチケット購入や、バス

待ちの列のようだ。連休でバスの臨時便が出ているとは言え、早い人は3時から並んでいるそう。行列に疲弊しながらも、6時半には駒ヶ岳ロープウェイ乗り場に到着する。

駒ヶ岳ロープウェイには乗らずに、駐車場を5分ほど下った入渓地点、しらび平橋を目指す。

## 個人山行報告

### 中御所谷西横川遡行

橋本 桂(準会員 A-0488)

令和5年9月16日～18日。シルバーウィークを利用して中央アルプスの中御所谷西横川を遡行した。メンバーは安東支部長、生野さん、橋本。

8月のはじめ、夏の遠征が私用で流れてしまった私に9月の遠征の話が舞い込んだ。願ってもないチャンスだった。主婦の隙間時間を使ってボルダリングジムに通い忙しい日々に少しでも山の時間を作った。

事前におさらいをしたかったが、なかなか情報が少なく、YouTubeなど、見ながら沢をイメージした。グレードは2だが、滑り沢や、30メートルの大滝など難所も所々にあるようだ。

9月16日 快晴

5時に大分市を車で出発。約12時間、交代で運転する。菅の台バスセンターでテント泊。軽く夕食を撮り就寝。

9月17日 快晴



6時50分しらび平橋袂から入渓。時間が早いいためか、沢の水は冷たい。しばらく、遡行していると、初秋の爽やかな風と夏の名残りを感ずる太陽が沢を照らしはじめた。はじめて見るアルプスの沢のスケールに圧倒されながら、その輝くような美しさに感動した。しばらくは沢歩きを楽しむ。小滝などいくつも超えて、ハーケンを打って登攀する場面もあった。ハーケンには、縦、横、両方使えるもの…軟製、硬製のもの、岩の状態に合わせていろいろな種類があるとを学んだ。ハーケンを打つ場所も考えながら、道具を使って登攀

する、岳人の精神を学んだ。難所である30メートルの大滝も半ば巻きながら超える事ができた。水量が少なく、滑床に苔も目立つ場所があったので慎重に歩いた。安東支部長に「猫のように登れよ。」と言われる。猫のようにしなやかに身体のバランスをとりながら登りなさいと言うことだ。体重移動のバランスを考えながら、つま先から指先まで意識をした。緊張と緩和を繰り返す。今年5月にサギダル尾根をご一緒した生野さんには「別人を見るみたいだ…。」と私の成長を褒められ、嬉しかった。忙しい時間を縫って、ボルダリングジムに通い、少しだけ成長した自分を感じることができた。それでも、標高が、2000メートルを超える頃、呼吸が浅くなり、思うように体が、動かなくなった。心配していた高山病だ。口をすぼめて深く呼吸をしながら、どうにか終了点のレリーフまで辿り着く事が出来た。

13時30分脱溪。脱溪地点でしばらく休憩する。この場所にある、レリーフ、豊川山岳会の治郎さんに手を合わせた。見守ってくれてありがとう…と心の中でつぶやいた。そのあとは廃道である長谷部新道を経て千畳敷カールまで歩いた。人が歩かなくなった長谷部新道はなかなかスリリングなルートであり、ところどころでルートが不明瞭であったり、道が土砂で流れて滑落の危険をとまなう場所もあった。千畳敷カールに出た時は、心から安心した。へとへとになって辿り着いた千畳敷カールは、街で見かけるようなおしゃれな服装の観光客にあふれていた。ヘルメットにハーネスの私達は観光の雰囲気には場違いな感じがした。

しかし、私の心の中には満足していた。先輩達についていくのが必死だったが私なりにやり遂げ



た。よくやった。そんな気持ちで初秋の美しい千畳敷カールを見上げた。そのあとも、高山病でなかなか足が進まない中、しまいには生野さんにザックを担いでもらう。情け無いのと苦しいのと…いろいろな感情が混在した。先輩達の足を引っ張りながら17時には宝剣山荘にたどり着く事ができた。山荘についてからもなかなか順応がうまくいかず、頑張って食べた夕食をもどしてしまった。その日は19時半には就寝した。

9月18日 快晴

4時起床。朝起きると、生まれ変わったように元気になっていた。夜のうちにどうやら高所順応ができたようだ。昨夜の分も取り戻すべく…朝食の白米をおかわりして食べた。そのあとは空荷で木曾駒ヶ岳に登頂。輝くような朝日の元、白峰三山、富士山…堂々たる姿を臨む事ができた。今年の5月にサギダル尾根を歩いた時は体力が尽きて、木曾駒ヶ岳に登頂することが出来なかった。遠征前、安東さんの「君は木曾駒ヶ岳に登らなくっちゃ。」という声が胸の中で響いた。あの日、木曾駒ヶ岳の山頂に立てなかった私に、最高の景色を見せてくれた。一度は高山病で登頂を諦めようとしていた。山頂に立てた時は感慨深かった。感謝だった。高山病に関しては、自分の体質も含めて、これからの課題である。呼吸法だけでなく、水分補給をしっかりとすることや、登山の途中で軽くストレッチをすることなど、予防できる事を学んだので、これから取り入れていきたい。

先輩たちのフォローで素晴らしい沢を楽しむ事ができた。私にはまだまだやるべきことがたくさんある。山と共にこれからも成長したい。





## 台湾五岳・南湖大山に参加して

日本山岳会本部山行委員会の企画

笠井美世(16883)

9月13日から9月16日までの台湾第五の高峰・南湖大山(3742m)登頂と、それに至る3000m級の尾根ルートの縦走に参加した。登山4日間は好天に恵まれた。

登山1日目は、地元警察による入山確認を経て、悪路に行く軽トラに乗り換えた。そこで、「80歳の方は先に乗ってください」との声に参加者の年齢層を知る。参加者10人、通訳、ガイド、ポーターの計13人の山行が始まった。勝光登山口(1930m)から出発し、高度が上がると大きな樹々が姿を現した。巨木には苔やシダなどの植物が自生して、大きく枝を広げていた。悠久の時を生きてきた巨木に比べ、私の生きてきた時間は短く、私の悩みなどちっぽけだと気づかされた。雲稜山荘(2590m)には5時間で到着した。

2日目は、審馬陣山(3141m)から笹山となり視界が開けた。岩場に差し掛かり3500mを越えると意識して呼吸をしても苦しさが増した。その時サブリーダーが水を渡してくれ、水を飲むと

スーと楽になった。南湖山荘(3390m)には8時間で到着した。

3日目は、3時に出発し南湖大山(3742m)に登頂した。一等三角点があり朝焼けの中、360度3000mを越える山並みが広がる。その後、堆積岩の南湖東峰(3639m)に立ち寄り、来た道を下し雲稜山荘には16時に到着した。4日目は勝光登山口まで下山した。

山小屋では「起床時刻までは起き上がらない」と言われ、私は目から鱗が落ちた。リーダーが決めた予定を守ることはメンバーシップの基本だと思った。

登山道ですれ違う台湾の方たちと「ニーハオ!ありがとう!」と言葉を交わし、南湖山荘では中華山岳会の方々とお酒を酌み交わし、温かい交流が楽しかった。

私は自分の登山に迷いがあったが、80歳のアルパインクライマー達の姿に、私もそうなりたと思った。高所に弱い事を自覚した私に、「大丈夫、行けるよ!」とのサブリーダーの言葉に、私ももっと高みに行ってみたくなった。私の初の海外登山、一步踏み出したら世界が開けた。



後ろは目指す南湖大山

## 私の無名山ガイドブック (N090)

上惣見(866.5m)・轟(619.6m)

飯田勝之(10912)

今回は中津市山国町の奥耶馬溪の三角点山頂へのルートを二つ紹介しよう。

### 上惣見

岳滅鬼山と英彦山を結び県境稜線の間にある、猫ノ丸尾付近から東に派生する稜線は、高度を下げながら山国川支流の轟川と藤原川の合流点の明鹿野へと落ち込んでいる。その稜線のほぼ真中にある東西に長い山頂部を持つ峰の中央の地点である。

国道496号の槻木から西に市道を入り、350m先の分岐を左に槻木橋を渡って進むと約4.6kmの藤原集落入口から林道藤原線に入る。これを約2.2kmで左に林道月平惣見線が

分岐し、右にもコンクリート舗装の道が分かれる。この右の道が登山口によい。200mほど先で砂防ダムがあり、道はそこ切れるのでその手前から左のスギの植林地内の急斜面に取り付いて登っていくとよい。

スギ林の中、小さな尾根状の急斜面の登りが続く。ひたすら登りで、途中で露岩の多い灌木の斜面となる。この辺りは地図上に破線が横切るところだが、道の形跡は見あたらない。

再び植林地の急斜面となり、林道からの高度差300m余を約1時間20分のアルパイトで東西に長い稜線に達する。やや広い平らな稜線の上に小さな丘がありここが最高地点であるが、三角点はそこから約80m東の平らな稜線上のヒノキの林の中にある。

地形図：25000分のI・吉井

参考タイム：林道～80分～上惣見



## お知らせコーナー

### 支部からの報告(会務報告)

#### 支部会議開催報告

第3回役員会 7月27日(木) 大分市西部公民館

1. 支部活動に新たな提案
2. 本部補助金(助成金)の利用計画について
3. 九州五支部集会に向けて
4. 山の日、登山実施計画について 他

第4回役員会 9月1日(金) 大分市西部公民館

1. 祖母・傾・大崩山系グレーディング調査について
2. 九州五支部集会(終えて)について
3. 本部からの補助金について
4. 登山講習会、支部研修会について
5. 韓国蔚山支部との交流について
6. 第20回青少年体験登山会の実施について
7. 第10期登山入門教室について
8. 古道調査報告書作成について

#### 支部ルーム開催状況

8月4日(金) 開催せず

9月1日(金) 分市西部公民館 出席者 12名

10月6日(金) 大分市西部公民館 出席者 3名

#### 支部ルーム開催予定

11月10日(金) 大分市西部公民館 18:30

12月1日(金) 大分市西部公民館 18:30

1月5日(金) 大分市西部公民館 18:30

#### 轟

上惣見のある稜線が高度600mを切って、急に明鹿野へと落ち込む手前の稜線上の肩にあたる所である。筆者が最初にこの三角点に登った昭和63年は、轟集落から山道を40分あまりかけて稜線に至って達したのだが、現在(平成28年)は轟林道がその直下を通っており、難なく達することができ、轟からの山道は途中の伐採などでその形跡はほとんど残っていない。

槻木の最奥の轟から轟林道に入り、林道入り口から1.8kmのところを越える地点があり、その西方200mあまりの地点に三角点はある。林道の右の斜面に階段があり、ここが取り付きに良い。稜線に上がり稜線直下につけられた作業道を上ると5分ほど行き、左手の灌木の中に踏み込むと三角点がある。また、さらに林道を300mほど行った地点の右手斜面に作業道が上っており、ここから上ると2.3分で到達できる。展望は素晴らしく良く、遠く犬ヶ岳に至る奥耶馬溪の山々やと谷間を見わたすことができる。

地形図：25000分のI吉井

参考タイム：林道～5分～轟

## 月例山行のご案内

### 11 月月例山行：尾鈴山 (1,405m)

日 時・・・11月5日(日)  
集合場所・・・戸次ホームワイド前駐車場 5時  
(乗り合わせで行きます)  
参加申し込み期限・・・10月23日(月)まで  
担当・・・鹿島正隆  
参加申し込み・・・下記メールをお願いします  
[macpapa@kcf.biglobe.ne.jp](mailto:macpapa@kcf.biglobe.ne.jp)

※地図 尾鈴山 1/25,000

### 12 月例山行：杵ノ木(406.1m)

(忘年登山と忘年会)

日 時・・・12月9日(土)  
出 発・・・12月9日(土)午前9時発  
集合場所・・・やかたの田舎の学校駐車場  
(中津市本耶馬溪町東屋形)  
参加申し込み期限・・・10月31日(火)まで  
担当 (支部長) 安東桂三  
申込は事務局・・・阿南寿範

TEL 097-597-7120

(携帯) 080-3187-2003

Email [beca5844@oct-net.ne.jp](mailto:beca5844@oct-net.ne.jp)

※地図 土佐井・耶馬溪東 1/25,000

### 1 月例山行：鞍岳 (1,117.9m)

日 時・・・1月21日(日)  
出 発・・・1月21日(日)  
集合場所・・・未定  
参加申し込み期限・・・1月5日(金)まで  
担当・・・鹿島正隆  
参加申し込み・・・下記メールをお願いします  
[macpapa@kcf.biglobe.ne.jp](mailto:macpapa@kcf.biglobe.ne.jp)

※地図 鞍岳 1/25,000

### 2 月例山行：天山 (1,046.1m)

日 時・・・2月11日(日)  
出 発・・・2月11日(日)  
集合場所・・・未定  
参加申し込み期限・・・1月26日(金)まで  
担当・・・鹿島正隆  
参加申し込み・・・下記メールをお願いします  
[macpapa@kcf.biglobe.ne.jp](mailto:macpapa@kcf.biglobe.ne.jp)

## 支部からのお知らせ

### スズケ枯死とシカの食害調査

毎年6月と10月に大分県生物研究会と共同作業で実施している調査は、現在県道7号線(緒方高千穂線)の崩壊して、現地に近づくことが出来ないため中止しています。

### 韓国山岳会との交登山会について

本年10月14・15日(土・日)に計画していましたが韓国山岳会蔚山支部との交流登山会は、延期となり、現在先方との調整中であります。方針が固まり次第ご案内いたしますのでお待ちください。

### 第7回 榎有恒碑前祭・北九州支部主催

日 時・・・令和5年10月29日(日) 予定  
場 所・・・北九州市(門司 風師山)  
※参加ご希望の方は、事務局まで連絡(電話またはメール)下さい。

### 宮崎ウエストン祭・宮崎支部主催

日 時・・・令和5年11月3日(金・祝) 予定  
場 所・・・宮崎県高千穂町(三秀台)  
※参加ご希望の方は、事務局まで連絡(電話またはメール)下さい。

### 日本山岳会ユース交流会2023 in 岐阜

クライミング講習会(初心者歓迎!)

日時・・・令和5年11月3日(金)5日(日)  
場所・・・高木山の岩場、伊木山の岩場(岐阜県)  
集合・・・①車 午前9時/桃太郎公園駐車場  
②電車 午前9時30分/JR美濃太田駅  
※参加ご希望の方は、行動予定等、詳細をお教えしますので事務局まで連絡下さい。

### 令和5年 年次晩餐会のご案内

日 時・・・令和5年12月2日(土)  
場 所・・・京王プラザホテル  
参加費・・・20,000円  
入場料・・・講演会のみ500円  
※講演会のみの方は、11月中旬頃から申込みを開始します。  
出席希望の方は、来月の会報「山」10月号同封の「令和5年度晩餐会参加費の支払い方法」

を、ご確認の上、参加費を11月17日(金)までにお振込み下さい。

**支部忘年登山と忘年会のご案内**

日 時……12月9日(土)  
集合場所……やかたの田舎の学校駐車場  
(中津市本耶馬溪町東屋形)  
会 費……6,500円  
申込は事務局……阿南寿範  
TEL 097-597-7120  
(携帯) 080-3187-2003  
Email [beca5844@oct-net.ne.jp](mailto:beca5844@oct-net.ne.jp)  
(12月月例山行の項参照)

**登山講習会・支部研修のお知らせ**

支部長の指示メールをお願いします。

**第5回支部役員会開催のご案内**

第5回 支部役員会を下記の通り開催しますので役員の方はご参集下さい。

日 時……令和5年11月6日(月)18:30  
場 所……大分市西部公民館  
議 題……①忘年登山・忘年会について  
②登山入門教室について  
③古道調査について  
④その他

**後 記**

・本号、掲載記事が多くて編集作業に手ごたえがあり、仕事のし甲斐があり過ぎました。編集者としては嬉しい?悲鳴。  
・我が家で飼っているスズムシ、二つの箱にいっぱいいて、盆前から鳴き競う声が家中に響いて煩いほどでした。

・お彼岸前あたりから少しずつ声が少なくなり、朝晩涼しさを感じ出した10日前ごろからぴたりと聞こえなくなりました、が……。  
・そんな中、一匹の雄がまるで掠れたキリギリスのような声で泣き続けています、何かの原因で羽を痛めてスズムシ本来の鳴き声になっていないので、雌たちが相手をしてくれないのでしょう。ただ一匹で、夜も昼もひたすら必死に鳴き続けています。  
・始めはたくさんの雄たちの出す鈴音に交じって変な音を出すのがいるのを、妻と笑って聞いていましたが、今ではその鳴き声も弱くなってきて、それでもまだ掠れた声で鳴き続けています。その音を聞いていると、なんだか心悲しい気持ちにさせられてきます。  
・箱の中には、まだたくさんの虫がうごめいていますが、全部おなかの膨らんだ雌です。ほかの雄たち姿は見られません。やがて雌も産卵を終えたら死骸だけが残ることでしょう。この雄はどうなるのやら……  
・秋深し隣は……!それにしても、どなたか代わって編集作業にかかわっていただけませんか、自薦、他薦の声をお聞かせください。  
(K・I)

**公益社団法人日本山岳会東九州支部  
東九州支部報 第103号**

2023年(令和5年)10月25日発行

発行者 安東桂三  
編集者 飯田勝之  
発行所 事務局

〒879-1113 大分市中判田15-55 阿南方

TEL・FAX 097-797-7120

E-mail [beca5844@oct-net.ne.jp](mailto:beca5844@oct-net.ne.jp)



**山溪**

西日本最大級の品揃え!  
since 1968  
登山・キャンプ専門店  
大分市生石1-3-1

GO ミ ナ サンサンサン  
**TEL 537-3333**  
**FAX 537-3388**

●西大分「交番」前高崎団地入り口  
●JR西大分駅より歩いて6分  
●10時~19時30分 ●火曜定休日

1968年創業の**山溪**が  
あなたのアウトドアライフをサポートします。

山道具の**110番**開設中!

靴が合っていないのか、登山に行く度足が痛くなる…。リュックサックが肩にくい込む。テントが雨漏りする。道具の使い方がわからない…等々、弊社ご購入品にかかわらずご相談に応じます。